日本大学 三島 同窓会々報

第 28 号

平成9年11月3日
静岡県三島市文教町2
日本大学三島同窓会発行

平成九年度 常任幹事会・幹事会開催

◎常任幹事会

平成九年九月六日(土)十六時から母校本館小会議室において開催された。

鈴木会長挨拶の後、佐野事務局長から、大学の行事等の関係で毎年六月に開催されていた本会を九月に変更させて頂いたとの挨拶があった。

久保田常任幹事の司会で、幹事会の運営や議事の内容について審議された。

平成八年度の事業計画・決算報告並びに平成九年度事業計画案・予算案について事務局から報告提案されいずれも承認された。

事業計画案・予算案のなかで、国際関係学部校友会加盟基金の積立てが、当初目標の六百万円に達したが校友会加盟が、近い将来に発足される事を期待して、それまで継続することで承認された。

継続事業の三島キャンパス開設五十周年に係わる事業について、実行委員長の西村美枝子顧問の代理として出席されている見上勇逸顧問から経過経緯の説明があった。

各期個人宛の募金、並びに同窓会事業基金積立ての三島同窓会奨学金設立基金としての寄贈については、総会までに三島キャンパス開設五十周年実行委員会を開催すべきと、委員長に要請することで承認された。

役員の件について、規約二十三条に基づき現役員は来年三月をもって任期となるため、ここで新役員を選出する必要がある旨、事務局長から説明があった。

会長につ、　・従来予科・教養部時代の副会長から選出されていることから、次期会長を事務局案として、小椋副会長に要請してきたが、小椋副会長から「校友会設立の準備等もあり、国際関係学部卒業者から会長を選出する時期にきているのではないか」と提案された。

斉藤国際関係学部同窓会事務局長から、宮下会長との話し合いの結果、次時尚早と辞退されたため、本日出席されている副会長で審議していただき、このあとの幹事会で報告する事で承認された。

また鈴木会長から、商経科二部同窓会長に山崎光義氏が就任されたため、副会長に推挙したいと提案され承認された。

総会の期日は十一月三日(月)十六時からと承認され常任幹事会は閉会した。

◎幹事会

平成九年九月六日(土)十七時から同大会議室で常任幹事会に引き続いて開催された。

久保田勝常任幹事の司会で進行され、鈴木邦良会長から本日の幹事会開催と、来る十一月三日の総会に向けて、役員改選にあたる年であり、次期会長や新役員のお願いと、開設五十周年記念事業として学部への「日本大学三島同窓会奨学金」基金の寄贈について、早く大学側の要請に応えたい等の挨拶がなされた。

その後議長団が選出され、議長に染谷徳昭氏、副議長に山口良児氏、書記に広岡達朗氏がそれぞれ選出され次の事項が審議された。

議事

一、平成八年度事業報告
一、平成八年度決算報告
一、監査報告
一、平成九年度事業報告(案)
一、平成九年度予算(案)
一、開設五十周年に係わる事業について
一、役員の件
一、総会の件
一、各科活動状況
一、その他

事業報告・事業計画(案)については、佐野勝己事務局長から、決算・予算(案)は久保和之常任幹事(会計担当補佐)から報告説明があり、また山崎光義会計監査から監査報告があり、それぞれ承認された。

なお、予算のなかで、国際関係学部校友会加盟基金積立てに関して、当初の目標金額に達しているが、継続することを承認された。そこで山内茂氏から、校友会設立後も三島同窓会は続けていくことの確認を提言され承認された。

開設五十周年に係わる事業について、見上勇逸顧問から西村美枝子委員長の代理として、「三島キャンパス開設五十周年記念実行委員会を設立したが、これといった報告はない。昨年の総会での決定を受けて各期から名簿をいただき募金活動を行っている。また同窓会記念事業積立て金を学部に寄付して、同窓会奨学金の基金とすることが既に決まっている。現在同窓会からいくら出すかについては、実行委員会委員が早急に集まり意志統一をする必要がある。総会まで委員会を開催してその結果を出せるようにしたい」との提案があり承認された。

これをうけ、事務局は西村実行委員長に連絡して委員会を開催することを確約した。

役員の件について、常任幹事会終了後副会長の中から、平井千枝氏が次期会長を受けていただくことになったことの報告が事務局長からあり、満場一致で承認された。

平井千枝副会長から「総会で正式にご承認いただいてからですが、桜栄会々長兼務でもあり、微力ながらも会員皆様のご協力を得て本会発展に尽くして行きたい」との挨拶があった。

次に、佐野事務局長から、商経科二部同窓会々長の山崎光義氏を副会長に推挙することと、各期の常任幹事及び幹事の変更のある場合は事務局まで申し出ていただき、また学内幹事の変更については一任していただきたい旨の提案がなされ、いづれも承認された。

総会の件については、例年の通り十一月三日(月)十六時からの開催が承認された。

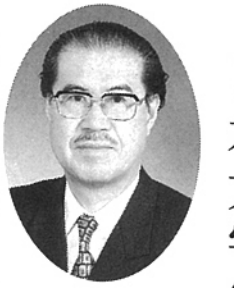
その他では、山内　茂氏から同窓会記念館は、戦前将校集会所であり、その歴史的価値から文化財保護登録申請をとの発案がなされた。

これに対し佐野事務局長から、静岡県は大正時代の建築を保存する意向であり、本記念館もその対象になった。解体して縮小してあるが「静岡県歴史的建造物」の仲間入りができ出版物に採用された経緯が述べられた。なお今後文化財関係の申請対象物になるか検討するとのことで承認された。

幹事会は久保田常任幹事の挨拶で閉会され、引き続き懇親会が和やかに同会場で開催された。

日本大学の再構築に向けて

日本大学副総長
国際関係学部長
秋山正幸



新涼快適の候となりましたが、同窓会の役員をはじめ、同窓生の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年、平成八年は三島キャンパス五十周年を迎え、各種の記念行事が開催されました。平成九年六月十二日には、記念行事の一環として、三島キャンパスの開設に尽力し、今日のわが学園の発展の基礎を築かれた呉文炳先生、秋葉安太郎先生、鈴木昇六先生の胸像の除幕式が本館第二会議室で行われました。この胸像の除幕式は三先人の功績をたたえると共に、その遺徳を偲ぶための行事であります。私たちは本キャンパスの基礎を築かれた三先人の努力を無にすることなく、新世紀に向けて今後わが学園の発展に邁進しなければならないと覚悟を新たにしております。

日本大学は瀬在幸安総長、森田賢治理事長の提案で「日本大学未来創造プロジェクトチーム」が結成されましたが、このほどこのプロジェクトチームの委員長から答申書が提出されました。具体的諮問事項の内容は次の通りであります。

一．教育部会

①社会人受入れを考慮した大学院の充実と国際ビジネスを視野に入れたビジネススクールの設置

②キャンパス整備計画と新たな学部・学科の設置

③学習環境を視点に据えた総合体育施設の整備・充実

二．研究部会

①学際的研究を担う総合大学院の設置

②外国人教員・研究者の用に供するための宿舎建設

三．財政部会

①総合大学としての総合性がより発揮できる合理的な財政運営の方策について

四．組織機構部会

①本部業務の見直しと本部組織の合理的改善策

②人事諸制度の早期見直しと合理的な改善策（以上「日本大学学報」臨時第58号参照）

上記の諮問事項の答申書を踏まえて、三島キャンパスにおいては、国際関係学部・短期大学部の改組転換を企画立案し、現在慎重にその具体化に向けて努力しているところであります。短期大学部を四年制に移行させることが中心な実施施策であります。

国際関係学部は欧米、アジア、オセアニア地域の七つの大学と学術交流協定の締結をしております。これらの諸外国の学生・教員・研究者の宿舎を早急に建設し、国際化時代にふさわしく、学術交流を一層活発にしてゆく所存であります。

現在の高度情報化社会においては、情報機器の普及に伴って、世界的規模で情報通信が行われ、産業構造の変革が顕著であります。わがキャンパスにおいても、学生、生徒たちがこのような社会システムに適応してできるような情報科学の教育と情報処理の機器の整備と充実が必要であります。

わがキャンパスにおいては、大学と付属高等学校との望ましい関係づくりに取り組んでいます。新世紀に向けての付属高等学校の発展と創造力豊かな大学の再構築に力を入れたいと思っています。

同窓会の皆様には、以上の施策にご理解下さり、三島キャンパスの発展のためにご支援ご協力を賜わりたく切にお願い申し上げます。終りに、同窓会の皆様のご健康と今後のご活躍を心からお祈りする次第であります。

過去に支えられた今

短期大学部次長
寺田篤弘

若い頃は同窓会という言葉に好感をいだくことがなかった。それは未来よりも過去に生きることに思われるし、雑誌に見る同窓生交歓のように自己顕示の場のような気がしたからであった。

先日、調査で山形へ行ったが、その車中、進行方向と逆に座って山や田園風景を見ていた。風景が次々に遠くに過ぎ去りながらしかも足元から新しい景色を生み出して行った。これも悪くないなと思った。この景色の流れ方を生き方に当て嵌めると進行方向に座って過ぎ去る景色を失って行くよりも、過去を見据えながら未来に向かう方がよいのではないかと思ったのである。過去を確認しながらの現在と未来のあり方といえようか。そう思うと未来のみ見つめる生き方が建設的で勇ましいのではなく、むしろ貧しくもろいものではないかと気付いた。

私の学問分野で内在的価値という言葉がある。一〇〇〇円のマフラーも恋人の贈物なら10万円、いや金に代え得ない価値がある。親の形見は錆びた鋏でも金に代えない価値がある。人生とはこの内在的価値を刻印して歩くことではないかと思う。内在的価値は多く過去に属する物である。人生の豊かさとはこの内在的価値をいかに多く持ったかによるのに違いない。

同窓会は時間と空間にこの内在的価値を思い出させる場であろう。卒業生に「神秘空間というものがあるが、10年先、20年先にはこのキャンパスは君達にとって神秘空間になる」だから、自分を失うことがあったら三島のキャンパスに戻ってこいと書いたことがある。「からゆきさん」のお墓はみな日本に向かって立てられていたという。社会に巣立った学生たちの魂の故郷が三島キャンパスであることを願わずにはいられない。

日本大学三島同窓会は日本大学三島予科の同窓生から今日までの同窓会だが、同窓会が持つ意味が時代と共に薄らいで行くような気がしてならない。残念なことである。平成7年の富桜祭には「学泉寮の集い」が行われ、寮歌が歌われた。会報に甲木康夫氏が書いている。

「半世紀を経て我らすでに往時茫々たるの思いしきりなんぞ、今ここに再会せし歓喜またいわん方なし、友よ更に新しき盃を求めると絶叫せし、遠き日の思いを今ここに再現せんかな、さらば声高らかに我らが青春を誇りつつ…」

平成の学生たちにもやがてこうした思いが蘇り、叫ぶ日が来るのであろうか。

詩人の尾崎喜八が「思い出を残して歩け、それは誰にも奪われることのない宝なのだ」と歌っていたが、その心が今になって染み透って来る。

教員は同窓生とはいえないのだろうが、勝手に同窓生と思っている。この三島の地に勤務した年数の同期生を持っていると思っている。教職員の多くがそう思っているのではないか。なんといっても学生という青春時代にこそ人生の甘味が濃縮されている。その青春を共有しうる職業はなんと恵まれていることかと思う。

三島を離れていった学生たちのことを思い出すことがある。ほとんどの学生は音信がない。しかし、転職の手紙、結婚の通知、2世誕生の手紙が時々舞い込んで来る。一つの手紙がその時のゼミ生のすべての顔とすべての思い出を蘇らせる。眠れぬ夜にこうした学生たちの姿を思い浮かべることがある。思い出すと軽い興奮を覚えて益々眠れなくなる。眠れなくなるのは困るのだが、これは、豊かな人生を送らせて貰っているのだと自分の人生を肯定する時でもある。

就任のあいさつ

国際関係学部事務局長
菊地達雄

同窓会の皆様には、ますますご健勝の事と衷心よりお慶び申し上げます。

羽山正一前事務局長の後任として平成9年5月5日付にて国際関係学部事務局長を拝命いたしました。若輩者でございますが、前事務局長に勝るとも劣らないご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

平成5年度の人事異動にて、本学部に着任し4年の年月がたちますが、昭和54年12月から62年3月までこのキャンパスに勤務していた事もあり、風光明媚な環境に恵まれたキャンパスと温情豊かな教職員並びに諸先輩とは特別なご縁があり、同窓会員諸兄姉の方々にはお知合いの方も多く、心強く思っています。これからもなお一層のご協力を頂きたくお願い申し上げる次第でございます。

さて、本学部三島キャンパスは、昨年度開設50周年を迎えることができました。これも諸先輩方の常日頃のご協力の賜と心から感謝申し上げます。

式典及び記念行事等については、昨年度の会報第27号で秋山正幸学部長が詳しく述べられている通りでございますが、同窓会諸兄姉をはじめ関係者皆様のおかげで無事終えることができましたことについて、心から御礼申し上げます。

キャンパス50周年記念事業資金の募金活動につきましては、現在も継続中で来年5月まで目標に向け着実に進めております。既に寄付のお願いのご案内がお手許に届いている方はご存じの事と思いますが、募集目的及び使途については①奨学金の設定資金②海外学術交流基金の拡充資金③教育研究基金の拡充資金などいづれも後輩たちの育英資金及び大学の発展と永続性を維持するための財政基盤の確立にあてるものであります。昨今の経済情勢は大変厳しく、皆様には何かと物入のことは承知しておりますが、何卒新なるご協力を重ねてお願い申し上げます。

また、50周年記念組織委員会において、三島キャンパス開設と発展に尽くされた先生方の胸像の作製と、写真を掲額することに合意がなされ、呉文炳・秋葉安太郎・鈴木昇六の三先生の胸像を作製し、去る6月12日に秋山正幸学部長、ご遺族並びに学内関係者が出席のうえ除幕式をおこないました。

また予科時代から三島の歴代の長を勤められた、呉　文炳予科長(第4代総長)秋葉安太郎教養部長(初代文理学部長)、安藤公平・玉津徳太郎・岩城之徳文理学部(三島)次長の先生方、並びに歴代国際関係学部長を勤められた高梨公之・蔵並省自・秋山正幸・村田博司各先生方の写真も本館会議室に掲額いたしました。同窓会の皆様ぜひご来校のうえお立ち寄りいただき、なつかしき恩師を慕っていただければ幸甚に存じます。

本学部は、来るべき21世紀にむけての力強い第一歩を歩みだしたばかりでございますが、皆様ご存じのとおりこれからの大学教育をとりまく状況は非常に厳しい時代に向かってまいります。

秋山学長が9月1日付にて日本大学副総長(学務・入試担当)にご就任されました。これを機に、先輩諸兄姉のご協力をいただき時代が求めるキャンパスに改組転換し、さらなる発展を期したいと念じておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

末筆ながら同窓会のますますのご発展と、会員皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

四十七年ぶりの同窓会

昭和二十二年入学(文科Eクラス)
榊原　昭

一九九七年(平成九年)二月十九日文科Eクラスでは静岡県沼津市で、予科以来四十七年ぶりの懐かしい同窓会を開き十三人が集まりました。

小学校の同窓会は会員が狭い地域に集まっているため集まりやすいが、大学ともなると全国規模の出身者の集まりなので、まず、会場をどこにするかが問題になります。昨年暮れに池袋で秋山先生の国際関係学部長就任記念の同窓会があり、その際Aクラスの白木勇美君から同窓会は東京で行われることが多いが、我々は三島の大学だから三島でやるべきではないかという提言がありました。

極めてもっともな意見なのでEクラスでは早速三島付近でやろうと言うことになりました。たまたま榊原の沼津市西条町の実家があいていたので、とりあえず第一回目なので気楽なところで開催しようということになり、会場は簡単に決まりました。

クラスだけの同窓会をやりたいという声は昔からあり、現に二十年ほど前に伊豆長岡で盛大な会を計画した事もありましたが、当時は丁度人生競争の真最中で、同窓会に出席する精神的、経済的余裕もなかったためか、出席予定者二名ということでお流れになったこともありました。また、全体の会に出席したところEクラスの人が誰もいなくてつまらなかったという話もありました。

今回は、皆六十七才から七十才ぐらいの年齢でリタイアした人も多く、また現職でも会社を子供に任せたなどという人もあり、平日の午後二時という時間に関わらず、声をかけた人の大部分が出席するという状況でした。声をかけたのは、出席可能と思われる東京　神奈川　静岡　埼玉各都県に居住する会員です。各人にそれぞれ卒業以来の話をして貰いましたが、参加者十三人の経歴は、教育者三人、僧職二人、公務員二人、会社員二人、会社経営三人、金融関係一人、国の外郭団体一人(僧職でしかも教育者という人がいるので数は合いません。)いずれも社会人として立派に活躍してきた顔ぶれでした。

当日は、話が大変はずみ時間のたつのも忘れるほどでした。卒業は一九五二年(昭和二十七年)で四十五年ぶりですが、途中予科から教養部になり東京の学部を卒業したため、三島以来四十七年ぶりの顔合わせが多く、はじめはお互いに誰だかわからない人もありました。しかし話しているうちに学生の頃の顔が浮かんできて次々に思い出しました。学生の頃の呼び名でビールなど飲み語り合うのは懐かしい限りでした。

塩坂　大関
塚本　加納
鈴木　土屋
久保田　山田
山中　鴨下
佐藤　榊原
堀川

「宗教研究会」昭和53年度ぐみ OB会開かる

昭和五十三年度L系法経済学部生
渡邉　誠

今年七月十九日、三島プラザホテルにおいて、五年ぶりに宗教研究会昭和五十三年ぐみが同窓会を開催しました。今回は永く顧問をなさっていた中澤俊郎教授が古希を迎えられ、日本大学を退官されるということで、それを記念して、先生ご夫妻をお招きして行ったわけです。

当時の三島キャンパスは法・文理・経・商学部所属のいわゆるL系の学生（一年のみ）と短大の学生により構成されており、宗教研究会も同様でした。入学時に3人の美人短大生の勧誘で宗教研に入ったわけですが、なんと富士山はどの登山道を登ろうと頂上は同じと言うことで、竜沢寺から坊さんを呼んで座禅の指導を受ける一方、メーヤー神父さんによる聖書の講義を受けるなどしながら、宗教とはいったい何なのかなどの議論に明け暮れる、まさにユニークな研究会でありました。

当時の部員はわずか十三名だけで、たった一年だけの付き合いでしたが、実に個性に富んだ仲間たちで、我が研究会の集いはまさに青春乱舞の坩堝であったように思います。特に奥日光男体山の麓での合宿は忘れ得ない貴重な青春の一ページとなりました。

三島を離れてはや二十年近い歳月を経た今日、互いに忙しく、また遠方に住んでいる者もあり、なかなか会う機会を作れませんが、この度の会に十三名中十名の参加を得たことは喜ばしいことです。しかも参加の諸君はそれぞれ適所を得て、情熱を燃やして自分の職責を果たしている様子、「さすがは宗教研究会出身だな」などと妙なところで感心している有様です。逞しく活躍している一人一人の近況を紹介したいところですが、紙片の都合で割愛させていただきます。

残念なことにL系の学生は三島キャンパスには一年だけしかいない関係で、縦の系列の連絡が殆どなかったのですが、さいわい大塚愛子（旧姓佐野）先輩のご努力により、中澤先生の古希の祝賀を機縁にして、昭和三十五年度頃から私たちの年度頃までの約二十年にわたる縦の同窓会をこの十一月十五日に開くことが本決まりになり、まことに喜ばしいことです。先輩後輩が入り乱れてどんな楽しい会になりますことか、今から楽しみにしています。

英国での語学学習

国際関係学科四年
今川　慶

自分がこの奨学金をいただいたことに、今でも驚いています。学生団体での活動が評価されたのだと思いますが、ほかにこの奨学金を受けるべき学生がたくさんいるので、大変恐縮しています。

いただいた奨学金は、英国での語学学習の費用として使わせていただきました。一週間八万円と高額なためあきらめていた個人レッスンを受けることができました。先生でもあるホストマザーが私の弱点に重点を置いてレッスンを組んでくれたり、ファミリーと一日中一緒にいることで、全く日本語を使わずに過ごせたことなど、短期間語学学校に通うより効果的だったと思います。また、ダイアナ元皇太子妃の事故で英国民の王族に対する考えと日本のそれとの違いを目の当たりにしたことはとても貴重な経験だと思います。

来年も三島キャンパスの学生が奨学金を有効に利用して同じように貴重な経験をできるよう願っています。ありがとうございました。

出会い

国際関係学科四年
田中智康

同窓会からの補助金により発行している体育会機関誌「桜樹」です。

入学前に抱いていた一つの不安。それは高校生の頃の自分に負けないだけの充実した時を過せるのか、という不安だった。そのことを友に相談するとこう言ってくれた。「おれとお前が何百万分の一の確率で出会ったかは知らないがお前がお前のままでいるなら、いい友達も充実ってやつも勝手に後からついてくる」と。

彼の言うことは正しかった。何をするにも積極的にやる、楽しみを見つけるという自分の考えに従った結果、私は大いに充実した生活を送ることが出来た。

充実した生活の根幹として日本拳法部に入ったことや体育会執行部の委員長を務めることが出来たことが挙げられる。これらの活動を通して、この紙面では書ききれない程多くの事を学び、一生付き合える友も出来た。

こんなすばらしい出会いの場を与えてくれた三島キャンパスに心から感謝致します。そしてこれから先の人生、今の充実した時を誇りにしながらさらなる充実と出会いを求めて歩んで行こうと思う。

夕焼け空

国際文化学科三年
小林寿成

最近、理由のないものが氾濫している。理由は簡単。どれもこれも商業ベースに乗って、資本が大量に投下され、採算を重視し始めたからである。販売業は巨大なものが吸収し、酒屋とタバコ屋は我先にとコンビニに変身する。日本中が巨大なものに飲み込まれ、画一化されていく。そこに、モノが存在する理由はただ一つ、売れるから。

しかしふと思うのは、その現実にかまけて、手を抜いていないか？伊丹十三監督は映画は自分と社会とのすりあわせだという。客と自分の接点を可能性ギリギリのところで探っていくのは、真剣にモノを造る人の姿勢だと。

現実に合わせることしかできないのが怠惰。現実を直視しないで理想しか持たないのが単純。現実に合わせながら理想を実現するのが純粋。社会にもまれても私は純粋でいたい。

富桜祭と自分挑戦

短期大学部商経学科Ⅱ部二年
池田昌史

富桜祭、年に一度の三島キャンパスでのビックイベントである。自分は、高校も日大三島高校だった為高校時代は富桜祭に来る一人の客でしかありませんでした。昨年この三島キャンパスの商経学科Ⅱ部に入学し、富桜祭を見る立場からやる立場へと変わりました。

我が商経学科Ⅱ部は模擬店で、焼きそば・タコ焼きを売ることになりました。どこの祭りでも学園祭にもあるありきたりなものです。当初、自分は焼きそば・タコ焼きなら楽でいいなと思っていました。しかし実態はそうではなかったのです。家で作るのは1人もしくは数人の分だけですが模擬店となると数百人単位でつくらなければならないのです。数百人単位の分の食材を用意して、開店前までの準備が物凄く大変とわかりました。食材の仕入の為に、早朝4時起きし、知人が勤めているスーパーに行き安い価格で売ってもらうのです。食材を売ってもらうだけでは簡単なんですが、開店10時までに下準備をするまでのほうが仕入より大変でした。食材も、どの大きさが一番見た目がいいかとか、どの大きさが一番食べやすいかとかを仲間で考えながら一生懸命準備をしました。いざ10時になると小学生からお年寄りまで、多くの人が来てくれました。最初のお客さんは、小学生でした。初めて作ったタコ焼きを一つあげると「ありがとう」といって食べだしました。自分は、味がどうしても気になって小学生に「どう？おいしい？」と聞くと「おいしい」といってくれたので、朝から頑張ってよかったと思いました。その日は、何個売れたかは覚えていませんが、多くのお客さんがおいしそうに食べてくれる姿を見たり、食べおわってからの「おいしかったよ」と言ってくれたのを聞いていて売り上げよりも、お客さん一人一人の笑顔のほうが嬉しく思えてきました。

今年も早起きすることになると思いますが、昨年以上に喜ぶ顔が見たいので、一生懸命頑張ろうと思います。また、売り上げのことしか考えてない人に早くこの喜びをしてもらいたいです。

平成８年度　事　業　報　告

1　三島同窓会長賞授与
平成８年度日本大学三島キャンパス在学生から，次の者が推薦された。
同窓会長賞（副賞記念品）は，国際関係学部１名，短期大学部１名に贈られ，平成９年３月25日の卒業式当日，帝国ホテルにおいて授与式が行われた。
同窓会長賞（副賞奨学金）は，国際関係学部３名，短期大学部１名に贈られ，４月４日の開講式当日授与式が行われた。
同窓会長賞（副賞記念品）２名
小薗井信之（国際文化学科４年）
春原　昌子（文学科英文専攻２年）
同窓会長賞（副賞奨学金）４名
今川　　慶（国際関係学科３年）　　田中　智康（国際関係学科３年）
小林　寿成（国際文化学科２年）　　池田　昌史（商経学科二部１年）

1　学園歌集発行
2,000部を発行し，平成８年４月国際関係学部・短期大学部各学科の新入生全員に対し入学祝いとして渡した。

1　会報発行
会報27号，平成８年11月３日付　12頁　3,000部を発行した。

1　各科同窓会等補助
国際関係学部同窓会・桜文会・桜栄会・商経科二部同窓会及び大学の体育会に補助した。

1　常任幹事会
平成８年６月29日㈯16時30分から，国際関係学部本館３階会議室で開催した。

1　幹事会
平成８年６月29日㈯18時から，国際関係学部本館３階会議室で開催した。

1　総会並びに懇親会
平成８年11月３日㈰16時から，国際関係学部記念館で開催した。

1　役員会
平成８年６月14日㈮16時から国際関係学部本館３階会議室で開催した。
平成９年２月７日㈮17時から三島市内（呉竹）で開催した。

平成８年度　収支決算書

（平成８年４月１日～平成９年３月31日）

単位：円

支出の部				収入の部			
項目	予算額	決算額	差異	項目	予算額	決算額	差異
奨学費	30,000	28,800	1,200	会費収入	4,278,000	4,134,000	144,000
学園歌集発行費	160,000	203,940	△ 43,940	雑収入	234,292	211,789	22,503
同窓会報発行費	180,000	221,450	△ 41,450	前受金収入	2,700,000	2,943,000	△ 243,000
各科同窓会等補助	120,000	191,500	△ 71,500				
学生団体補助	400,000	200,000	200,000				
総会並びに懇親会費	430,000	331,246	98,754				
会議会合費	300,000	283,160	16,840				
通信運搬費	50,000	28,790	21,210				
事務費	200,000	89,094	110,906				
雑費	200,000	20,000	180,000				
予備費	700,000	0	700,000				
計	2,770,000	1,597,980	1,172,020	計	7,212,292	7,288,789	△ 76,497
基金繰入額	5,380,000	3,380,000	2,000,000	基金繰出額	0	0	0
次年度繰越金	2,700,000	3,029,517	△ 329,517	前年度繰越金	3,637,708	718,708	2,919,000
（前受金）	(2,700,000)	(2,943,000)	(△ 243,000)				
（繰越金）	(0)	(86,517)	(△ 86,517)				
支出の部合計	10,850,000	8,007,497	2,842,503	収入の部合計	10,850,000	8,007,497	2,842,503

貸借対照表

（平成９年３月31日現在）

単位：円

借方		貸方	
項目	金額	項目	金額
普通預金	1,129,517	基金	38,100,000
		（前年度繰越額）	(34,720,000)
定期預金	40,000,000	（本年度繰入額）	(3,380,000)
		次年度繰越金	3,029,517
		（前受金）	(2,943,000)
		（繰越金）	(86,517)
合計	41,129,517	合計	41,129,517

基金の内訳

単位：円

項目	前年度繰越額	本年度繰入額	合計
同窓会事業基金	29,020,000	2,780,000	31,800,000
国際関係学部校友会加盟基金	5,700,000	600,000	6,300,000
計	34,720,000	3,380,000	38,100,000

平成８年度収支について、関係帳簿並びに証拠書類を精査いたしましたが、記帳その他正確であることを認めます。

平成９年９月６日

会計監査　山崎光義　㊞
同　　土屋忠得　㊞

平成９年度　事　業　計　画

1　三島同窓会長賞授与（副賞：記念品もしくは奨学金）
日本大学国際関係学部および短期大学部を平成10年３月卒業・４月に進級の予定の者を対象とする。

同窓会長賞並びに記念品	国際関係学部	４年卒業予定者	各学科１名
	短期大学部	２年卒業予定者	各学科１名
同窓会長賞並びに奨学金	国際関係学部	各学科２・３年生	各学年１名
	短期大学部	１年生	各学科１名

1　学園歌集発行予定
2,000部を発行し，平成９年４月国際関係学部・短期大学部各学科の新入生全員に対し入学祝いとして渡す。

1　会報発行予定
会報28号（平成9年11月３日）発行予定　10頁　3,000部

1　各科同窓会等補助
(1)　各科の名簿編集の推進，及び各科同窓会行事に対する補助。
(2)　大学体育会・文化会に対する補助。

1　常任幹事会
平成９年９月６日(土)16時から，国際関係学部本館３階会議室において開催する。

1　幹事会
平成９年９月６日(土)17時から，国際関係学部本館３階会議室において開催する。

1　総会並びに懇親会
平成９年11月３日(月)16時から，国際関係学部記念館において開催する。

1　50周年記念募金協力について

平成９年度　収支予算書

（平成９年４月１日～平成10年３月31日）

単位：円

支出の部				収入の部			
項目	本年度予算額	前年度予算額	増・減（△）	項目	本年度予算額	前年度予算額	増・減（△）
奨学費	400,000	30,000	370,000	会費収入	4,482,000	4,278,000	204,000
学園歌集発行費	210,000	160,000	50,000	雑収入	231,483	234,292	△ 2,809
同窓会報発行費	200,000	180,000	20,000	前受金収入	2,700,000	2,700,000	0
各科同窓会等補助	150,000	120,000	30,000				
学生団体補助	400,000	400,000	0				
総会並びに懇親会費	400,000	430,000	△ 30,000				
会議会合費	300,000	300,000	0				
通信運搬費	40,000	50,000	△ 10,000				
事務費	150,000	200,000	△ 50,000				
雑費	150,000	200,000	△ 50,000				
予備費	700,000	700,000	0				
計	3,100,000	2,770,000	330,000	計	7,413,483	7,212,292	201,191
基金繰入額	1,700,000	5,380,000	△3,680,000	基金繰出額	0	0	0
次年度繰越金	2,700,000	2,700,000	0	前年度繰越金	86,517	3,637,708	△3,551,191
（前受金）	(2,700,000)	(2,700,000)	(0)				
（繰越金）	(0)	(0)	(0)				
支出の部合計	7,500,000	10,850,000	△3,350,000	収入の部合計	7,500,000	10,850,000	△3,350,000

幹　事　長沢　龍助　(27・28)
幹　事　佐々木凱男　(27・28)
幹　事　川崎　一成　(27・28)
幹　事　丸山富美男　(28)
幹　事　坂詰　正衛　(28・29)
幹　事　望月　知林　(28・29)
幹　事　安東　安生　(29・30)
幹　事　田嶋　文義　(29・30)
幹　事　寺崎　哲郎　(29・30)
幹　事　関　哲男　(29・30)
幹　事　林田（中村）達郎　(29・30)
幹　事　森　伸夫　(30・31)
幹　事　道見　俊廣　(30・31)
幹　事　小野　武　(30・31)
幹　事　宮尾　昌介　(30・31)
幹　事　菅　修　(30・31)
幹　事　馬場　妙子　(30・31)
幹　事　屋鋪　公平　(30・31)
幹　事　杉山　茂　(30・31)
幹　事　根岸　元宏　(31・32)
幹　事　加藤　三洲　(31・32)
幹　事　渡部　浩司　(31・32)
幹　事　大村日出雄　(32)
幹　事　甲田　知由　(33)
幹　事　杉本　直志　(33)
幹　事　市橋　悟　(34)
幹　事　朴澤　英憲　(34・35)
幹　事　吉野　洋一　(35)
幹　事　横田　晋朗　(35)
幹　事　鈴木　肇　(35)
幹　事　御供　政紀　(35・36)
幹　事　小澤　文郎　(36)
幹　事　大西　良雄　(37)
幹　事　小川　武司　(37)
幹　事　多田清太郎　(37)
幹　事　坂口　正剛　(37)
幹　事　小石川宣照　(37)
幹　事　谷崎　邦昭　(38)
幹　事　栗山　康雄　(39)

幹　事　両角　勇　(42)
幹　事　濱田　義之　(45)
幹　事　高藤　省三　(49)
幹　事　河田　敏明　(50)
幹　事　滝本　博　(53)

幹　事　岩崎（伊藤）尚枝　(41・42)
幹　事　小永井京子　(43・44)
幹　事　平岩（金子）美知子　(44・45)
幹　事　高橋（大場）真理子　(44・45)
幹　事　石井千枝子　(46・47)
幹　事　勝亦（古川）幾代　(56・57)
幹　事　鈴木三奈子　(62・63)
幹　事　宇佐見京子　(元・2)
幹　事　根岸　明美　(3・4)
幹　事　飯田まり子　(3・4)
幹　事　間川　直子　(4・5)

幹　事　荒木（飯村）とよ子　(39・40)
幹　事　萩野谷　肇　(41・42)
幹　事　上田　定義　(41・42)
幹　事　加藤　久貴　(46・47)
幹　事　秋山　稔明　(46・47)
幹　事　前田　正丈　(47・48)
幹　事　藤本　哲生　(47・48)
幹　事　野田　栄　(47・48)
幹　事　棚橋　敏彦　(50・51)
幹　事　小松真由美　(51・52)
幹　事　矢崎　真治　(53・54)

幹　事　林　尚美　(62・63)
幹　事　野室香世子　(2・3)
幹　事　小澤　知子　(5・6)

幹　事　宮下　正俊　(39・40)
幹　事　瀬村　隆治　(42・43)
幹　事　吉田　力　(44・45)
幹　事　長倉　良幸　(44・45)
幹　事　前山　良光　(45・46)

幹　事　早川　清文　(45・46)
幹　事　菅野　利幸　(45・46)
幹　事　三枝　和彦　(46・47)
幹　事　天野　寿一　(48・49)
幹　事　埜村　光伸　(53・54)

幹　事　岩月　和男　(40・41)
幹　事　中山　義昭　(41・42)
幹　事　渡辺　清　(42・43)
幹　事　赤池　哲也　(42・43)
幹　事　深井　富雄　(45・46)
幹　事　河田　哲雄　(46・47)
幹　事　西家　勝彦　(51・52)
幹　事　勝呂　千明　(52・53)

幹　事　加藤　晴俊　(30・31)
幹　事　加藤　博昭　(48・49)
幹　事　津田　正克　(50・51)
幹　事　後藤　善夫　(52・53)
幹　事　吉村しげみ　(元・2)
幹　事　鈴木知恵美　(2・3)
幹　事　藤澤　博隆　(3・4)
幹　事　小野　和彦　(3・4)
幹　事　中津川明子　(3・4)
幹　事　白川　美保　(5・6)

幹　事　遠藤日出夫　(37)
幹　事　渡辺　博夫　(37)
幹　事　江川　洋　(42)
幹　事　藤幡　俊量　(46)

幹　事　松原　裕二　(54～57)
幹　事　井上（贄川）晶子　(54～57)
幹　事　大木めぐみ　(2～5)
幹　事　阪　朋子　(2～5)
幹　事　小川　菊子　(2～5)
幹　事　藤島　あや　(3～6)
幹　事　土屋　珠美　(3～6)
幹　事　志藤由美子　(3～6)

任期（H８.4.1～H10.3.31）

平成９年度役員

顧　　問　西村　満男　(21～23)
顧　　問　西村美枝子（長谷川）　(22～24)
顧　　問　中嶋　信行　(23～25)
顧　　問　奥田　吉郎　(23～25)
顧　　問　瀬川　一男　(23～25)
顧　　問　宮沢　主計　(25・26)
顧　　問　渡辺　勝一　(26・27)
顧　　問　見上　勇逸　(27・28)

会　　長　鈴木　邦良　(27・28)
副 会 長　小椋　貞夫　(28・29)
副 会 長　平井　千枝　(34・35)
副 会 長　高田　菊平　(36)
副 会 長　山田　浩子　(41・42)
副 会 長　岩崎　一雄　(43・44)
副 会 長　宮下　公雄　(54～57)
事務局長　佐野　勝己　(39・40)
常任幹事（庶務担当）　久保田　勝　(38・39)
常任幹事（庶務担当）　田中　由雄　(42・43)
常任幹事（会計担当）　宮川　守　(47・48)
常任幹事　木村　幸夫　(23～25)
常任幹事　白鳥　義仁　(25・26)
常任幹事　光信　儁　(26・27)
常任幹事　鈴木　義樹　(28・29)
常任幹事　角田　義廣　(30・31)
常任幹事　市川　紀子　(37・38)
常任幹事　小出　博　(40・41)
常任幹事　柴田　正　(41・42)
常任幹事　土屋　貞明　(42・43)
常任幹事　小早川隆義　(42・43)
常任幹事　染谷　徳昭　(42・43)
常任幹事　渡辺　忠昭　(42・43)
常任幹事　林田　孝二　(43)
常任幹事　山口　良児　(43・44)
常任幹事　相田　信次　(44・45)
常任幹事　鈴木　正八　(44・45)
常任幹事　久保田博明　(45・46)
常任幹事　榎本　睦美　(45・46)

常任幹事　西野　和衛（望月）　(46・47)
常任幹事　江本　博勝　(46・47)
常任幹事　沼上　博美（伊出）　(48・49)
常任幹事　関野　幹雄　(48・49)
常任幹事　大島　裕二　(52・53)
常任幹事　斎藤　聡　(54～57)
常任幹事　木村貴美和　(55～58)
常任幹事　渡辺　桂子　(60・61)
常任幹事　野田　正人　(62・63)
常任幹事　久保　和之　(63・元)
常任幹事　廣岡　達郎　(元～４)
会計監査　山崎　光義　(44・45)
会計監査　土屋　忠得　(40・41)

幹　　事　高田日出太郎　(21)
幹　　事　馬場　康夫　(21・22)
幹　　事　清　好一　(21～23)
幹　　事　石垣　義親　(21～23)
幹　　事　小野　真一　(21～23)
幹　　事　米内　国夫　(21～23)
幹　　事　澤　直和　(21～23)
幹　　事　滝川　昇　(22・23)
幹　　事　中浜　卓弥　(22～24)
幹　　事　中塩　利雄　(22～24)
幹　　事　北條　晃　(22～24)
幹　　事　長田　渉　(22～24)
幹　　事　山内　茂　(22～24)
幹　　事　川口　正信　(22～24)
幹　　事　小林　昭雄　(22～24)
幹　　事　金田　豊　(23～25)
幹　　事　小林　栄三　(23～25)
幹　　事　勝俣　敞充　(23～25)
幹　　事　森下　菊美　(23～25)
幹　　事　宝地　克哉　(23～25)
幹　　事　播本　弘　(23～25)
幹　　事　長谷川駿一　(23～25)
幹　　事　徳増　清二　(23～25)
幹　　事　石野　進　(23～25)

幹　　事　石垣　恭弘　(23～25)
幹　　事　井上　忠彦　(23～25)
幹　　事　細田　昭次　(23～25)
幹　　事　杉山　吉房　(23～25)
幹　　事　服部　房夫　(23～25)
幹　　事　浅海　武夫　(23～25)
幹　　事　芹澤　克治　(24・25)
幹　　事　石川　進　(25・26)
幹　　事　矢沢　知秋　(25・26)
幹　　事　長倉　祐作　(25・26)
幹　　事　宮崎　茂樹　(25・2
幹　　事　伊藤　悟　(25・26)
幹　　事　辻　省二　(26・27)
幹　　事　田村　実　(26・27)
幹　　事　浅原　好胤　(26・27)
幹　　事　宮崎　乾朗　(26・27)
幹　　事　高橋　英明　(26・27)
幹　　事　荒川　通　(26・27)
幹　　事　岩永　勉　(26・27)
幹　　事　塩田　浩　(26・27)
幹　　事　村野　静司　(26・27)
幹　　事　大井　徹也　(26・27)
幹　　事　稲葉　昭　(26・27)
幹　　事　吉田　昭二　(26・27)
幹　　事　熊崎　文二　(26・27)
幹　　事　輿水　啓一　(26・27)
幹　　事　廣田　均　(26・27)
幹　　事　栗原　恒夫　(26・27)
幹　　事　黒滝　祐司　(27・28)
幹　　事　小林　義尚　(27・28)
幹　　事　田村　栄一　(27・28)
幹　　事　上野　実　(27・28)
幹　　事　関本　文彦　(27・28)
幹　　事　真部　喜孝　(27・28)
幹　　事　結城　勇一　(27・28)
幹　　事　土屋　仁　(27・28)
幹　　事　勝又　国信　(27・28)
幹　　事　青木　政利　(27・28)

同窓会だより

国際関係学部同窓会

平成九年度の国際関係学部同窓会が、平成九年十一月二日(日)十五時三〇分から三島プラザホテルにおいて開催されました。総会におきましては、宮下公雄会長の挨拶に続き、会務報告及び会計報告が実施され、満場一致で承認されました。

総会に引き続きまして懇親会が開催されました。秋山正幸学部長をはじめ恩師の先生方を囲み和やかな雰囲気の中、出席者相互の交流・親睦を深め合いました。最後に、あらためて母校の発展に協力することを、出席者全員の拍手をもって再確認し、無事終了しました。

桜文会

去る平成九年二月十五日(土)十六時から短期大学部文学科同窓会(桜文会)が、三島プラザホテルにて開催されました。第二十八回を迎えた本会では、卒業を三月に控える三十期生と多数の同窓会諸姉、そして、中澤俊郎短大次長をはじめ、多くの先生方のご列席をいただきました。山田浩子会長の挨拶のあと、来賓としてお迎えした秋山正幸国際関係学部長並びに石井茂三島市長から丁重なるご祝辞をいただいたり、余興の部では、文学科三十周年を記念して作成されたビデオの上映会が行われたりと、楽しい一時を過ごすことができ、盛大な総会・懇親会となりました。

平成九年五月には、十年に一度の会員名簿を発行させることができ、ご協力いただいた　様に、この場を借りて御礼申し上げます。

桜文会を通じて、これからも会員の方々が交流を深め、新たなる発展につながるよう心から祈ってやみません。

桜栄会

桜栄会では、毎年会報「桜栄」を発行しております。今年度は三十二号を平成九年七月二十日に発行し、約八千名の全会員に郵送いたしました。当番期の方々を中心に作成し、特色ある会報をお届けできたことと思います。

平成九年九月二十八日(日)には、第三十七回総会・懇親会が三島グランドホテルにて行われました。総会で年間行事報告、会計報告などを行った後、講師に渡辺洋子食物栄養専攻非常勤講師を迎えて講演会が行われました。引き続き行われた懇親会は、七期・十七期・二十七期の当番期を含む約三十名の会員、菊地達雄事務局長をはじめ恩師の先生方、三島同窓会や桜文会からの来賓をお迎えして、なごやかな会となりました。

また、十年に一度発行の会員名簿は、平成九年三月に無事発行いたしました。ご協力いただきましてありがとうございました。

日本大学三島同窓会規約

第一条　本会は日本大学三島同窓会と称する。

第二条　本会は事務所を日本大学三島校舎におく。

第三条　本会は日本大学三島学科、三島教養部、文理学部三島校舎、短期大学部三島、国際関係学部、大学院国際関係研究科の出身者による正会員と幹事会において本会に関係が深く功労のあると認められた特別会員・名誉会員により構成する。

第四条　本会は会員相互の親睦と融和をはかり母校の発展に寄与すると共に母校建学の理念を社会に拡充することを目的とする。

第五条　本会は前条目的達成のために左の事業を行う。

一、会員相互の親睦と融和をはかるための諸事業。

一、母校の発展興隆に関する諸事業への協力参加。

一、その他目的達成のために必要な諸事業。

第六条　本会は目的達成のため左の機関をおく。

一、総会

一、幹事会

一、常任幹事会

一、事務局

一、地方支部

第七条　総会は本会運営上の諸事項についての報告を受けこれを承認する。

第八条　総会は年一回開催するものとし会長がこれを招集する。

第九条　幹事会は総会の代行決議機関とし左の事項を付議し、これを議決する。

一、予算・決算に関する事項。

一、事業計画に関する事項。

一、会則の改廃に関する事項。

一、その他第五条にもとづいて必要と認められた事項。

第十条　幹事会は年二回以上開催するものとし会長がこれを招集する。幹事会三分の一以上の要求があった場合は臨時に招集しなければならない。

第十一条　常任幹事会は本会の執行機関として本会の実質的運営にあたる。

第十二条　常任幹事会は必要に応じて随時会長がこれを招集する。

常任幹事三分の一以上の要求があった場合は、会長は常任幹事会を招集しなければならない。

第十三条　事務局は事務局長指示のもと会員相互の連絡及び各会議の議事の収録並びに運営に必要な一切の事務を行う。

第十四条　本会は地方に支部を設けることができる。

第十五条　本会に左の役員をおき、総会において選出する。

常任幹事・名誉役員(別の基準に従って選出する。

会　長　一名

副会長　若干名

事務局長　一名

常任幹事　若干名

幹　事　若干名

会計監査　二名

顧　問　若干名

参　与　若干名

第十六条　会長は本会を代表し会務を統理する。

第十七条　副会長は会長を補佐し、会長事故ある時はこれに代る。

第十八条　事務局長は事務を統理し、本会運営に必要な一切の事務事項を遂行する。

第十九条　常任幹事は幹事の互選により選出し、常任幹事会を構成、本会業務の執行にあたる。

第二十条　幹事は幹事会を構成し、本会運営の諸事項の議決にあたる。

第二十一条　会計監査は本会会計の監査にあたる。

第二十二条　顧問・参与は幹事会の議を経て会長が委嘱し本会運営上の諮問にあたる。

第二十三条　各役員の任期は二年とし、重任をさまたげない。

第二十四条　本会の経費は会費並びに寄付金その他の収入を以てこれに充てる。

第二十五条　会員は終身会費として金参千円を、日本大学三島会計課に納入すること。

第二十六条　本会の会計年度は四月一日に始まり翌年三月三十一日に終る。

第二十七条　本会の目的および事業に貢献したものは幹事会の議を経て、これを賞することができる。

第二十八条　会員で会員としての名誉を棄損する行為があったときは幹事会の議を経て罰することができる。

第二十九条　本会の運営に必要な細則は別に定めることができる。

第三十条　本会則は昭和四十一年十一月三日からその効力を発する。

昭和五十二年十一月改正
昭和五十五年十一月改正
昭和五十八年　七月改正
昭和六十二年十一月改正
平成　元　年十一月改正
平成　三　年十一月改正